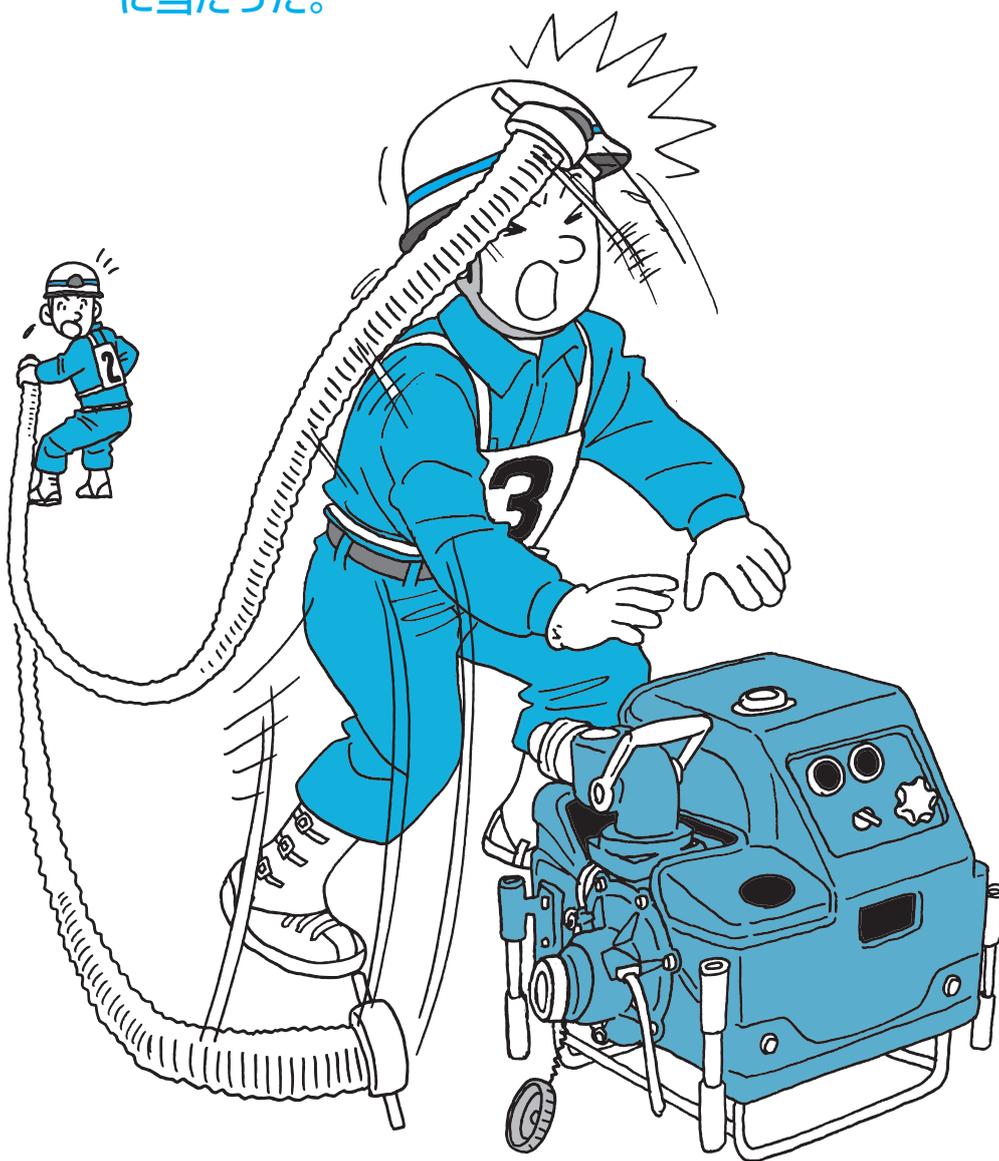


ポンプ操法

事例
1

消防署の操練場で小型ポンプ操法訓練中、2番員と3番員が吸管操作を行っていたときに、可搬式ポンプから吸管を取り外し、後方にいた2番員が吸管を巻き取るために吸管を引いたため、吸管の端部が跳ね上がり結合金具が前額部に当たった。



結果

前額部挫創

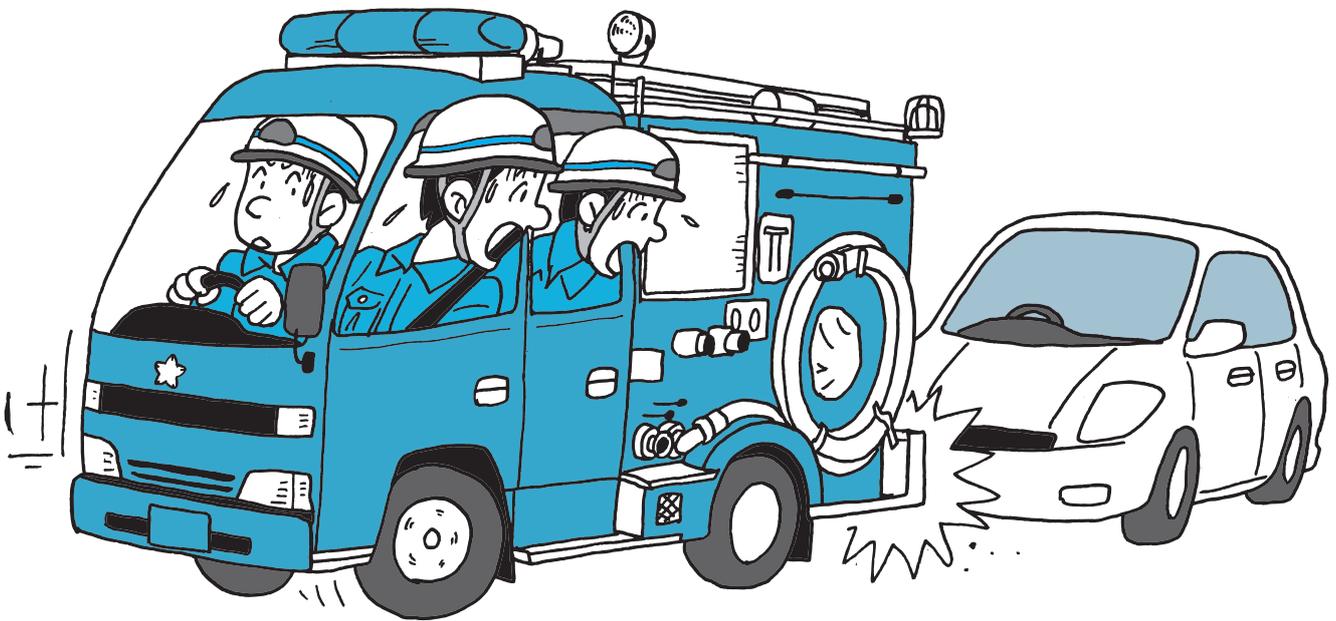
▶▶▶ 対策

連携操作時、両者は作業内容が相手に分かるように、はっきりとした声で「〇〇よし！」等と合図をし、相互に確認しながら作業する。

ポンプ操法

事例
2

消防操法訓練の準備のため、防災センター駐車場内に設置されているホース乾燥塔へ、以前訓練で使用したホースを撤収するため、消防車両を後退させていた際、車両に4名乗車したままで、誘導員を配置していなかったため、防災センターを訪れていた付近住民の車両が駐車されていることに気づかず接触事故を起こした。



結果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

指揮者は、車両後退時には、必ず団員を下車させ、後方及び両側の安全を確認させる。

機関員は、誘導員の合図に従い安全運転により後退する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

ポンプ操法

事例
3

消防操法競技大会へ向けた訓練中、訓練場であるアスファルト舗装された埠頭で、機関員の送水操作訓練中に、筒先を保持していた団員が水圧に耐えられず、筒先が振られ近くにいた指揮者の右足に当たった。

結果

右足外果骨骨折

送水操作訓練は、指揮者の指揮統制のもとに実施する。

機関員は筒先員と連絡を密にし、筒先保持体勢が完了したのを確認してから送水する。



対策

送水圧はあらかじめ定めておき、予備送水をした後に送水する。ただし、急な高圧送水をしてはならない。

機関員にも筒先保持を経験させる。

ポンプ操法

事例
4

消防演習会場でポンプ自動車操法準備中、ポンプ自動車の停車位置を修正するため5～6m後退する際、後部ステップ部に操法訓練に使用するホース6本が不安定な状態で置かれていた。それらのホースを1名の団員が落ちないように手で押さえながらポンプ自動車が停車位置修正のため後退した。

結果

負傷者なし

安全管理者を配置し、安全管理者は危険作業があれば、直ちに作業を中止させる。

指揮者は、車両から積載資器材の落下の危険がないことを確認するまで移動を命じない。

機関員は、積載資器材の安全積載を確認するまで発車しない。

団員は後退中の車両後方付近での作業をしない。



対策

ポンプ操法

事例
5

訓練場所である公園で、夜間の消防団操法訓練における事前設定の際、照明器具の取り付けのため脚立（高さ 1.5m）の上で作業をしていたとき、強風にあおられ、不安定な姿勢で作業をしていたためバランスを崩し、飛び降りようとしたが足が脚立に引っかかり転落した。



結果

腰背部打撲、頸部痛、
両下腿挫創、前額部挫創

 対策

高所での作業は、指揮者の指揮のもとに実施し、単独作業をさせない。
強風等で危険が予想される時には、安全が確認できるまで作業を中止する。

高所で作業をする時は、必ず命綱をつける。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

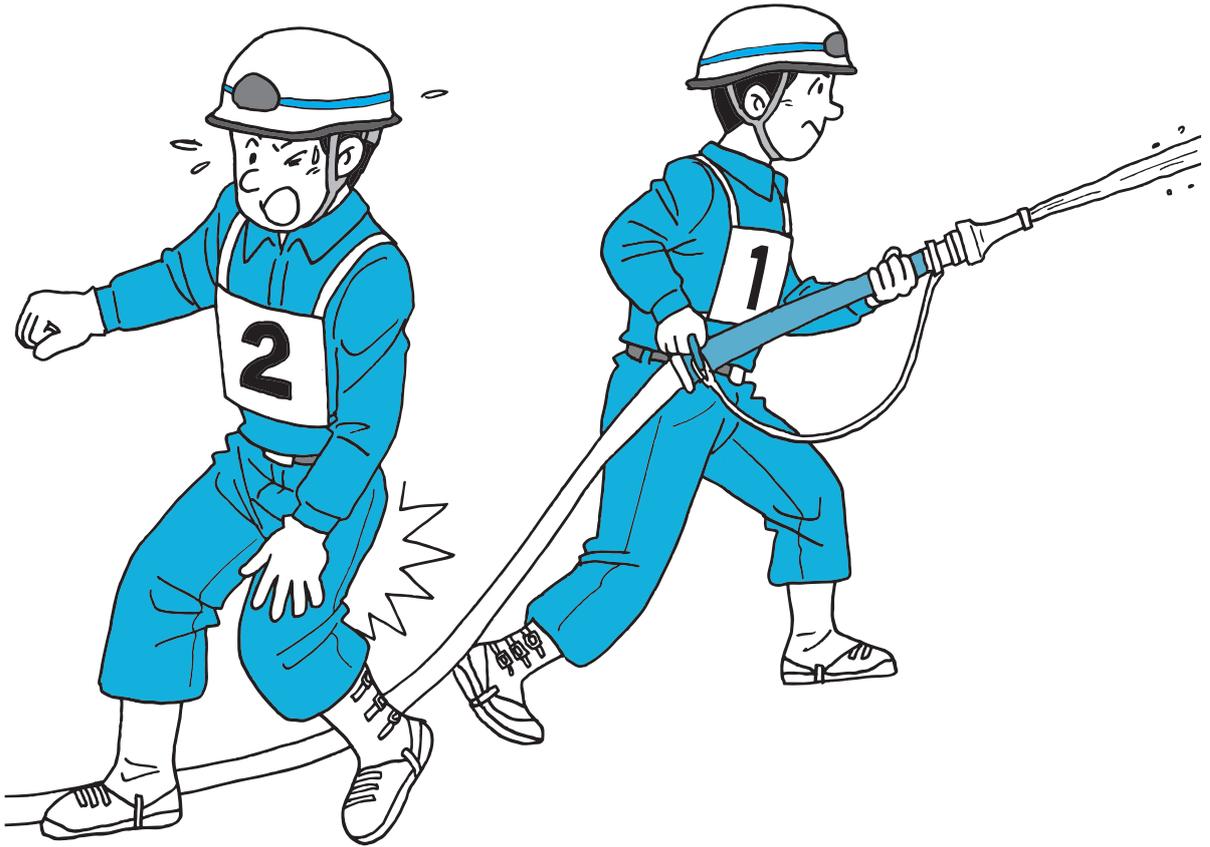
往復経路

点検整備
その他

ポンプ操法

事例
6

消防操法審査会事前訓練で2番員として訓練中、指揮者のホース1本増加の下命を受け、放水補助姿勢からホースを放し、可搬式ポンプの方向に向きを変え走り出した際、左足ふくらはぎに痛みを感じた。



結果

左腓腹筋断裂

▶▶▶ 対策

安全管理者を配置し、スピードや型を重視した不自然な動きや無理な動作をさせない。

選手は、競技訓練に耐え得る基礎体力を付けるとともに訓練の前後には入念な準備運動及び整理運動を必ず行う。

ポンプ操法

事例
7

操法訓練終了後、補助機関員として消防自動車を車庫内に停車させてエンジンを止めて格納した際、下車しようと右足を車両ステップに乗せたとき、足もとを良く見なかったためステップにきちんと右足を置くことができず、足を滑らせてコンクリートの床面に転落した。



結果

腰部及び臀部打撲

▶▶▶ 対策

担当業務の終了間際には、つい、ほっとして無意識行動になり安全確認が疎かになりがちとなるが、業務が完了するまで集中力を保つ。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

ポンプ操法

事例
8

小型ポンプ操法訓練終了後、ポンプを収納するため、機関員が車両を取りに行こうと訓練場所であるグラウンド周囲の鉄柵を飛び越えようとした際、鉄柵を握っていた手が滑り、地面に落ちた。

結果

左股関節部・左大腿骨
頸部内側骨折

▶▶▶ 対策

緊急で他に手段がない時以外はいかなる作業時にも、近道反応（通るべき道を通らず、安全を無視して近道をする）をしてはならない。

ポンプ操法

事例
9

町内の多目的グラウンドでポンプ車操法訓練中、ポンプ車を定位置に移動させ、資器材を積載する際、ポンプ車が定位置についたと勘違いした団員が車両の後方から資器材を積載しようとしたとき、ポンプ車が定位置につくため後進し、団員に当たりそうになった。

結果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

訓練場内で車両を移動させる際、指揮者は全団員に聞こえるようにはっきりとした声で注意を喚起する。

機関員は、指揮者の指示と誘導員の合図により安全を確認してから後退発車する。

団員は憶測判断で行動せず、指揮者の指示に従って行動する。

ポンプ操法

事例
10

市スポーツセンター内の野球場の外周に位置するコンクリート造の広場で夜間の操法訓練中、筒先とホース1本を背負い火点に向かって走っていた際、投光器を点灯していたが光量が十分ではなかったため、緑地帯の境界が確認できず縁石につまづき転倒した。

結果 左足の負傷

 対策

夜間訓練時は、訓練会場全体に適切な照明ができるように照明器具を配置する。

指揮者、安全管理者は事前に訓練会場全体を点検し、全団員に状況を説明する。

団員は説明を受けた状況を確認し、事故防止に努める。

ポンプ操法

事例
11

アスファルトの駐車場で小型ポンプ操法訓練中、2番員として、一連の動作が終了し、待機位置へ駆け足で移動中、周囲が暗かったため吸水管があることに気づかず、足を引っ掛け転倒した。

結果 左足首捻挫

 対策

夜間の訓練の際には、照明器具を適所に配置するとともに吸水管に反射テープを貼る。

監視員を配置する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

ポンプ操法

事例
12

地元の広場で小型ポンプ操法の訓練中、2番員として、その日3回目の訓練において、吸管に枕木を取り付けた後、とび口を左脇に抱え走り出した直後右足ふくらはぎに激痛が走った。

訓練期間の末期であったため疲労がたまっていたと思われる。



結果

右下腿肉離れ

▶▶▶ 対策

準備運動や整理運動を入念に行う。

日常から小まめに体を動かし運動不足にならないように努める。

訓練終了後、クーリングダウンやマッサージを行い、疲労回復に努める。

ポンプ操法

事例
13

中学校校庭で小型ポンプ操法訓練中、指揮者として筒先を背負い、二重巻きホースを左肩に担いで右方向へ方向転換をした際、右足に激しい痛みを感じた。

結果

右大腿四頭筋不全断裂

▶▶▶ 対策

準備運動や整理運動を入念に行う。

日常から小まめに体を動かし運動不足にならないように努める。

訓練終了後、クーリングダウンやマッサージを行い、疲労回復に努める。

ポンプ操法

事例
14

小学校校庭で消防ポンプ操法の訓練中、1番員として「放水開始」の伝令に全力疾走で向かった際、小雨で地面が濡れていて滑りやすい状態であったため、停止線で足を滑らせ転倒した。

結果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

訓練指揮者は、訓練時の時刻や天候等、訓練環境により実施方法を工夫する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

ポンプ操法

事例 15

操法大会に出場し、1番員として競技中、指揮者が「操作はじめ」の合図で筒先を背負う際、指揮者に近づき過ぎていたため、筒先が鼻を直撃した。



結果

鼻骨骨折

▶▶▶ 対策

訓練時の行動基礎（安全確実な行動、迅速な行動、指揮者を含む他の団員との連携等）を段階的に習得し、練度を高める。

ポンプ操法

事例
16

市内のグラウンドでポンプ車操法訓練中、2番員としてポンプ車から下車する際、ステップを目視しなかったため、足を滑らせた。

結果

左アキレス腱周囲炎

▶▶▶ 対策

下車する際には必ずステップを目視する。
目視するだけでなく常に次の動作を考えて行動する。

ポンプ操法

事例
17

夜間、駐車場で操法大会に向けてポンプ車操法訓練中、2番員としてポンプ車から降り、駆け足でポンプ車後方へ回りこみ、二重巻きホースに手をかけ搬送しようとした際、身体のバランスを崩し、左手第2指をポンプ車の後部ステップに強打した。

結果

左手第2指骨折

▶▶▶ 対策

訓練の実施方法を見直し、ひとつひとつの動作が確実にできるようになることに重点を置いた訓練を実施する。
入念な準備運動や整理運動を行うこととし、夜間訓練の際には、照明を2方向から照射するなどの工夫をする。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

その他

ポンプ操法

事例
18

河川敷でポンプ車操法の訓練中、2番員が筒先をかまえて放水が始まった際、筒先とホースの結合部分が外れ、ホースが水の勢いで暴れた状態になった。



結果

負傷者なし

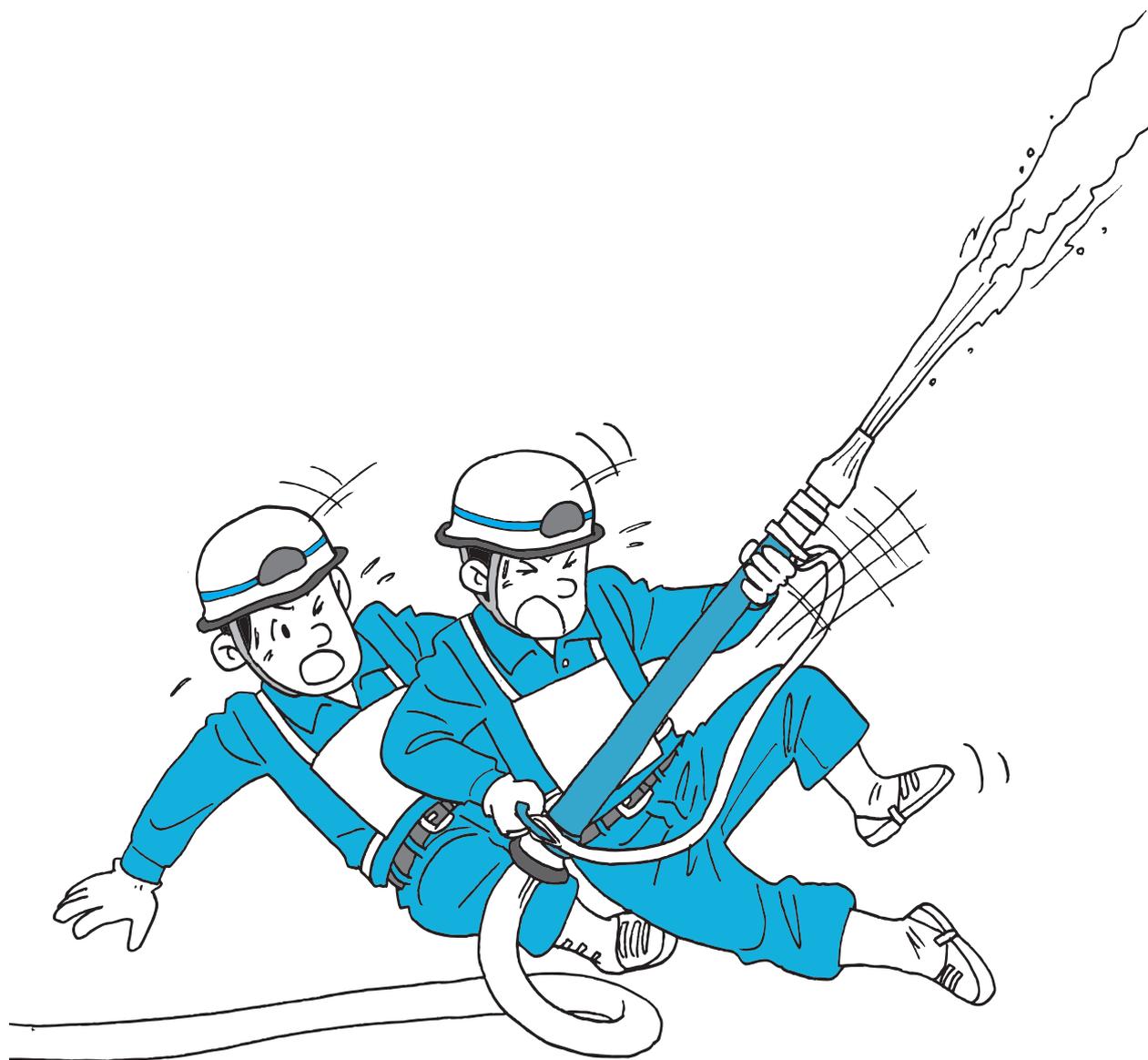
▶▶▶ 対策

基本的訓練を十分に行い、基礎的動作に習熟する。
確認呼称を要所で行う習慣をつける。

ポンプ操法

事例
19

消防本部構内のアスファルトの地面でポンプ操法大会に向けた訓練中、放水の早さを競う応用操法訓練で筒先を2名で保持しようとしていた際、姿勢が安定する前に急激に放水圧が上がったため、その反動で筒先保持員2名が転倒した。



結果

掌部擦過傷

 対策

基準圧力操作を徹底するとともに、安全監視員を配置する。
 機関員が目視できる範囲内において、事前放水の際、放水によるホースの膨れ具合により送水位置を確認する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

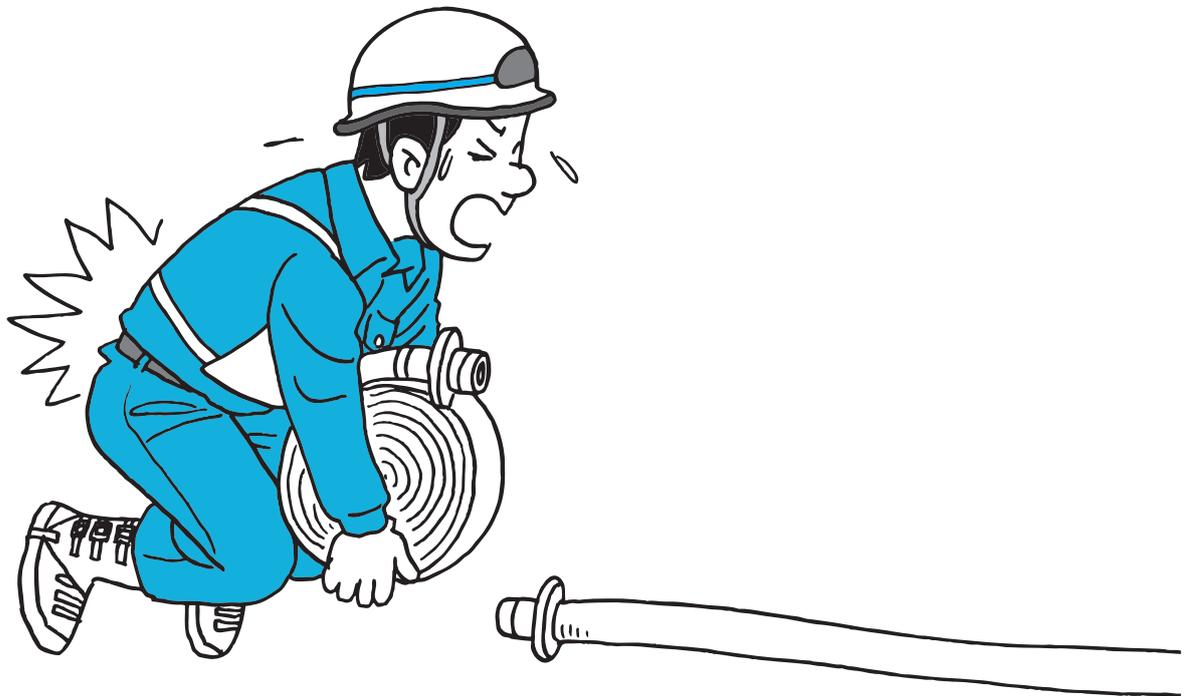
往復経路

その他
点検整備

ポンプ操法

事例
20

アスファルトの駐車場で小型ポンプ操法訓練中、第1ホース展長後、第2ホースを中腰の姿勢で展長する際、ホース（重量約8kg）を急に持ち上げたため、腰部に違和感を覚え、動けなくなり、その場に倒れこんだ。



結果

腰椎捻挫

▶▶▶ 対策

訓練開始前後には、必ず団員の体調を確認し、準備運動及び整理運動を入念に行う。

体をホースに近づけてから持ち上げ、腕や腰にかかる負担を減らす。重量物を持ち上げるときの基本姿勢（腰を降ろし背筋を伸ばして持ち上げる。）を訓練で習得する。